

### Ⅲ．地 域 集 団

人々が地域の団体といかなる関わりをもち、近隣どおしでどのような関係を形成しているのか、について見ようとするのがこの章の課題である。

私たちの日常生活は、生活に密着した集団を通して営まれている。その意味で、地域社会を見る場合、様々な地域団体について考えてみる意義は大きい。地域の人々がそれらに加入している場合もあれば、そうでない場合もあるが、いずれの場合でも個人の行動に、それらは大な

り小なり影響を与えている。また、さらには、それらの集団それ自体で地域社会に対して役割を果たしている。

さて、ここで対象としている西陣は、和装織物業とその関連業種を地場産業とする歴史の古いまちである。こうした特徴を有している西陣地域において、人々はどのような地域集団に加入し、それらを通して地域社会とどのような関わりをつくりあげているのか。

#### 1. 地域の団体への加入

問4では、一般的にどここの地域にもみられる団体を8つの項目で、イ. 加入、ロ. 最も強いつながりを感じるもの、ハ. その理由、をたずねた。まず団体への加入についてみると表Ⅲ-1のようになる。「町内会・自治会」への加入は、一般に8割前後の組織化率であるとみられているが、この地域でも同様の調査結果が示されている。「青年会・婦人会・老人会」への加入率が高く、逆に「PTA」への加入率が低いのは高齢者の多いこの地域の特徴を示しているだろう。例えば、大阪のベッドタウンである千里ニュータウンの三分の二をかかえる人口約34万の吹田市と比較してみると、この傾向がよくわかる(表Ⅱ-2)。また、「宗教団体」への加入率もやや高い傾向にあると考えられるし、「商店会」への加入率も14.2%と高いようにみえるが、「同業組合」を含めているので、西陣といった地域の性格を考慮すると、必ずしもそうとも思えない。

図Ⅲ-1はさらに、加入の傾向がほぼわかる上位3つの団体を除いて、それぞれへの加入を年齢別にみたものである。「趣味・サークル」が、年齢が上がるにつれて低くなるのに対して「宗教団体」はその逆の傾向をしめしている。

表Ⅲ-1 地域の団体への加入率

組 織 や 団 体	加 入 率 (%)
1. 町内会・自治会	80.9
2. 青年会・婦人会・老人クラブ	33.3
3. P T A	15.7
4. 趣味・スポーツ・サークル	19.2
5. 同窓会・県人会	16.0
6. 宗 教 団 体	17.0
7. 政 治 団 体	13.4
8. 商 店 会	14.2

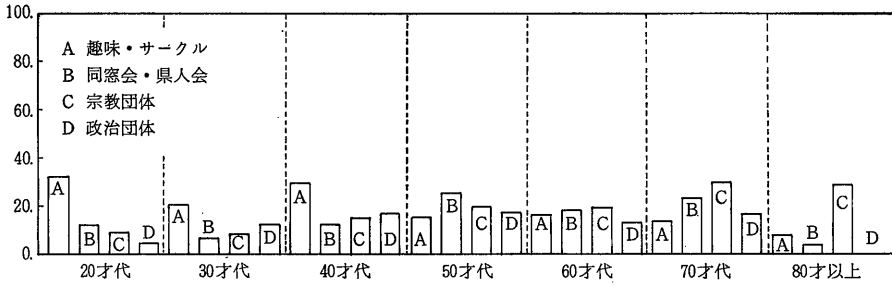
表Ⅲ-2 吹田市の団体加入率

組 織 や 団 体	加 入 率 (%)
1. 町内会・自治会	75.8
2. 青年会・婦人会	15.8
3. P T A	34.4
4. サ ー ク ル	21.9
5. 県 人 会	19.9
6. 宗 教 団 体	15.5
7. 政 治 団 体	13.4
8. 商 店 会	4.3

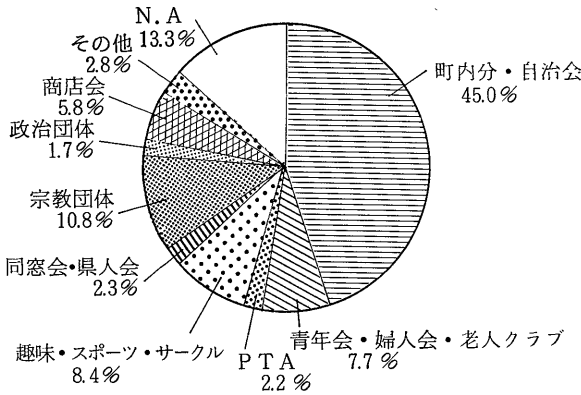
注 『吹田市民意識調査報告書』昭和57年10月23～25日、吹田市・立命館大学地域社会研究会

「政治団体」は、「50代」が17.6%、「40代」が17.3%で高いが、「70代」でも17.2%と高く、

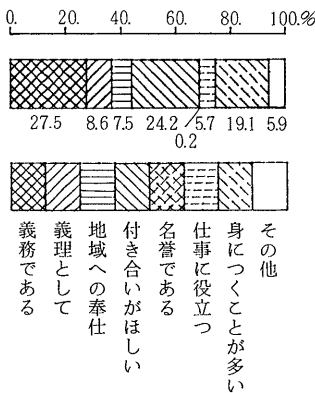
図Ⅲ-1 年齢別にみた団体への加入率



図Ⅲ-2 最も強いつながりを感じている団体



図Ⅲ-3 強いつながりを感じる理由



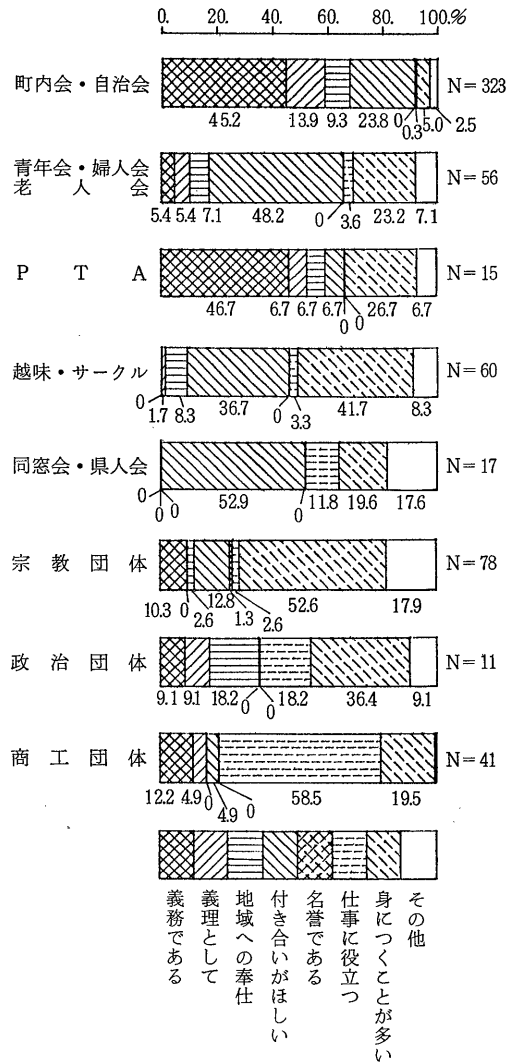
一つの特徴とみてよいだろう。

図Ⅲ-2は、それらの8項目の団体のなかで、最も強いつながりを感じているものは何かの問に対して得た回答を、図で示したものである。「町内会・自治会」が45%で最も高く、「宗教団体」10.8%、「趣味・スポーツ・サークル」8.4%、「青年会・老人会・婦人会」7.7%と続いている。

図Ⅲ-3は、最も強いつながりを感じている理由を図で示したものである。「義務である」が27.9%、「付き合いがほしい」24.5%、「身に

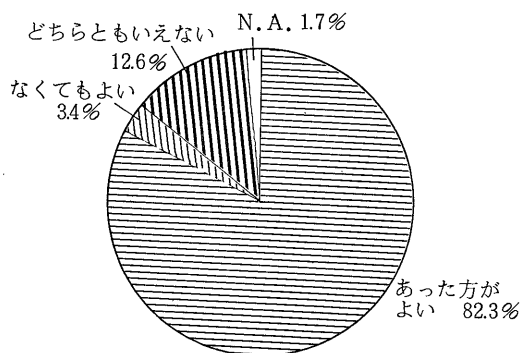
つくことが多い」19.4%と高い。これらが、地域で人々が集団に加入する一般的理由と考えられる。では、それをさらに団体別にみてみるとどうなるであろうか。それを示したものが、図Ⅲ-4である。「町内会・自治会」と「P.T.A」

図Ⅲ-4 団体別にみた理由

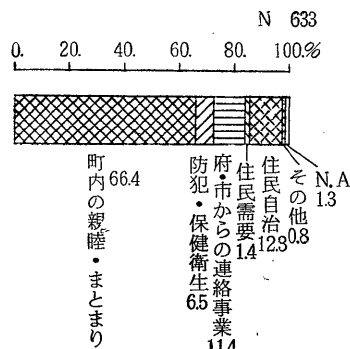


は、「義務である」がほぼ等しく高く、地域において同じような役割を果たしている反面、その次に続く理由が前者では「付き合いがほしい」、後者では「身につくことが多い」となり、それらが異なった性格を有している一面をうかがわせる。「趣味・スポーツ・サークル」は当然としても、「宗教団体」や「政治団体」が「身につくことが多い」とされている点は、なかなか興味深い。

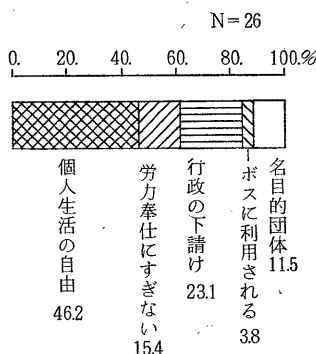
図Ⅲ-5 町内会自治会はあった方が良いか



図Ⅲ-6 必要な理由



図Ⅲ-7 不必要な理由



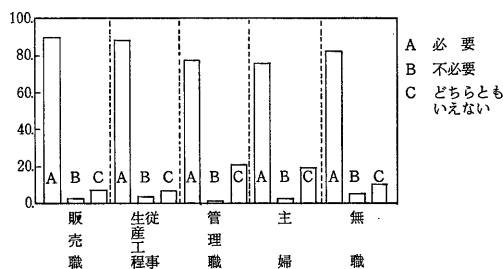
## 2. 町内会・自治会

町内会や自治会は、日本のほとんどの地域に存在し、そこでまた、ほとんどの人々が加入している。だが、それはあくまで任意といった形式をとっている。遡れば、戦前どころか明治期の「共同組合」、さらには江戸期の「町組」にまで通ずると考えられる町内会であるが、そのあり方は地域の人々に様々な意味をあたえる。活動の多くが自分たちのためのものでありながら、半ば強制として受け止められたり、役員に負担がかかり過ぎたりしている場合もみられ、新聞紙上の投書に現れる。確かに、第二次大戦期には内務省により法的な位置づけがなされ、町内会は戦争を遂行していくうえでの末端組織としての役割が与えられて、それが最も重大な問題点を露呈している。しかしながら、地域の人々の生活が良くなっていくには、地域の実生活環境にかかわる施設などの整備とともに、住民組織が重要な意味をもっている点についても、改めて指摘するまでもない。地域の人々の

生活が心の通いあった穏やかなものであることが望ましいだけでなく、地域の施設を維持管理したり、生活環境を改善したりするためには、地域の人々の組織化が不可欠なのである。町内会に関心が向けられはじめ、いろいろと議論を呼んでいる今日、その実態を把握する意義は大きい。ここでは、以下の点についてだけ質問した。

問5では、町内会・自治会はあった方がよいかどうかたずね、さらにその理由についても聞

図Ⅲ-8 職業別にみた町内会・自治会の必要・不必要

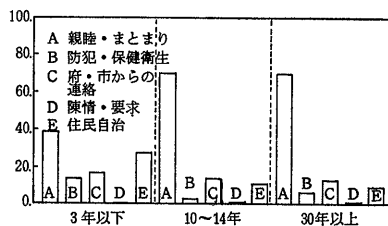


いてみた。「あった方がよい」は82.3%、「なくてもよい」が3.4%で、大多数の人々が自治会・町内会を認めているが、「どちらともいえない」が13.6%あり、それをさらにこの地域に多い職業でみたものが、図Ⅲ-8である。「販売職」「運輸・生産工程」「無職」に「あった方がよい」とする意見が多いのに対して、「管理職」「主婦」に「どちらともいえない」とする考え方がみうけられる。この点は、今後注目しておく必要があるであろう。

必要な理由は、「親睦・まとまり」が66.4%と高く、「住民自治のため」12.3%、「府・市からの事務連絡のため」11.4%で、町内会・自治会が住民自身のものとして捉えられている。さらに居住年数を「3年以下」「10～14年」「30年」でみると、「3年以下」で「住民自治」が高い。

地域の団体のなかで、「町内会・自治会」に「最も強いつながりを感じる」とした人が45%で、そのうちの45.2%がそれを「義務である」と答えた前問と合わせて考えてみても、町内会や自治会と呼ばれる地域の人々をほとんど丸ごと含みこんだ組織が、この地域で一定の位置を

図Ⅲ-9 居住年数別にみた町内会・自治会の必要な理由



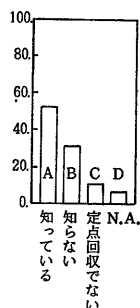
占めていることがよくうかがえる。一般に、町内会は行政の下請け機関で、政治的に利用されている、とする見方もあるように思われるが、西陣学区でみる限り、必ずしもそのように人々のなかで意識されているとは言えないようである。しかし、主婦にはその負担がかかっているために、消極的な姿勢がうかがえることは推察できるとしても、職業的に上層にある経営者を含んだ「管理職」層に、多少消極的な姿勢がみられるのは何故だろうか。必要でないとする理由のサンプル数が少ないために、さらに詳しくみることができないが興味深い点である(図Ⅲ-9)。

### 3. 近 隣 の 関 係

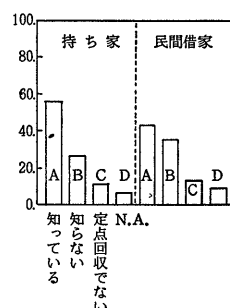
西陣学区の人々が、自分たちの近隣をどのように意識しているのかについて、ここでは2つの質問で問うてみた。問6ではゴミの回収後の後かたづけについて、問8では「オモテとロージ」についての受けとめ方についてである。

まず問6についてみてみよう。西陣地域は、狭い通りやロージが多く、清掃車が各戸の前で一軒一軒ゴミの回収を行いにくい(定点回収でないと答えたものは10.7%)。そこで多くの場合、一定の場所までゴミを持ちよる方法がとられている。ところが、清掃車によってゴミが回収された後、大抵その場所が多少汚くなっているものである。それがどのように処理されているのかを知っていることは、近隣での日々の生活をやっていくうえで、いわば基本的なことと考えられるわけだが、「知っている」と答えた者が52.1%に対し、「知らない」と答えた者が31.2%もいる(図Ⅲ-10)。この点で見る限りにおい

図Ⅲ-10 ゴミ回収後の後かたづけ

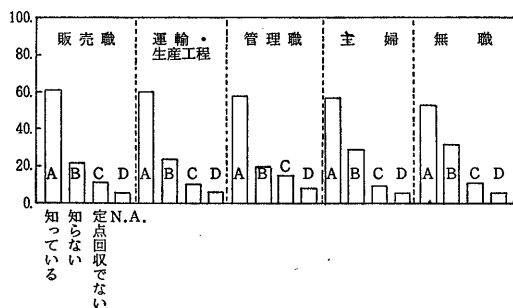


図Ⅲ-11 住居形態別にみたゴミ回収後の後かたづけ

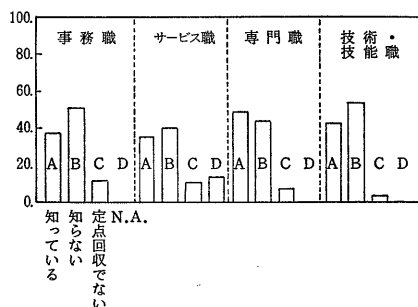


て、西陣地域が、一般に見られているほどには「共同的」な近隣関係を形成しているとは考えにくい。さらに、家屋の所有形態と職業で見ると、「民間借家」で「事務職」「サービス職」「専門職」「技術職」に「知らない」と答えた者が多く(図Ⅲ-13)、逆に「知っている」と答えた

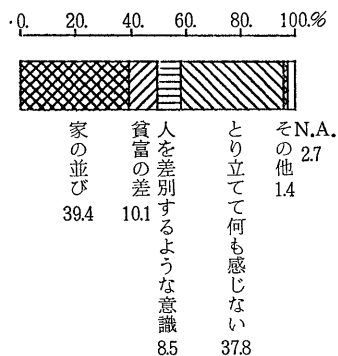
図Ⅲ-12 職業別ゴミ回収後の  
あとかたづけ (その1)



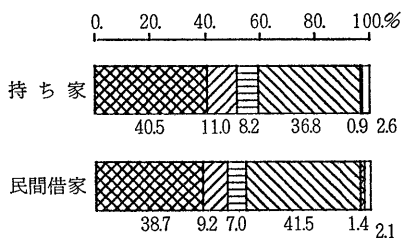
図Ⅲ-13 職業別ゴミ回収後の  
あとかたづけ (その2)



図Ⅲ-14 オモテとロージについての意識



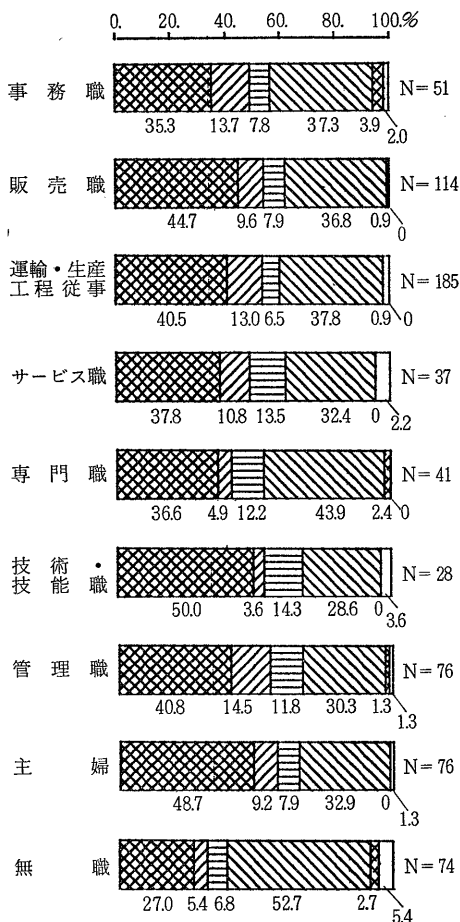
図Ⅲ-15 職業別にみたオモテと  
ロージについての意識



表Ⅲ-3 掃除の仕方の内容

内 容	度数	構成比
1. 公団の清掃員が処理する	28	32.9
2. 気づいた人がする	14	16.5
3. 各々がする	11	12.9
4. 組長がする	8	9.4
5. 近くの人がする	7	8.2
6. 前の人がする	4	4.7
7. 当番制	3	3.5
8. 各戸が集まってする	2	2.4
9. 役員がする	2	2.3
10. 表通りに面した家の人とする	1	1.2
11. 特定の家の人がする	1	1.2
12. 必要に応じてする	1	1.2
13. ごみは散布しないので掃除不要	1	1.2
14. 持ちよった人達の責任で行う	1	1.2
15. 掃除はしていない	1	1.2
合 計	85	100.0

図Ⅲ-16 居住形態別にみたオモテと  
ロージについての意識



者は、「持ち家」で「販売職」「運輸・生産工程従事」「管理職」「主婦」「無職」に多いことがうかがえ(図Ⅲ-12)、西陣学区に定住的であって、西陣に関係した仕事をもつ人と推察できよう。

「知っている」と答えた人に、さらにその具体的な内容について記入を求めたところ、「知っている」と答えた人403名(52.4%)のうち、85名(21.1%)の回答があった。それを表にしたものが、表Ⅲ-3である。「清掃員が処理する」とした公団住宅のケースが32.9%含まれるので、西陣の地域的特性を考えるうえで、これをとりあえず除外してみると、「気づいた人がする」(16.5%),「各々がする」(12.9%)と高く、それに対して「組長がする」(9.4%),「当番制」(3.5%),「各戸が集まってする」(2.4%),「役員がする」(2.3%)となっている。つまり、なんらかのルールのもとに行われているところより、成り行きにまかせられているところの方が多いうである。

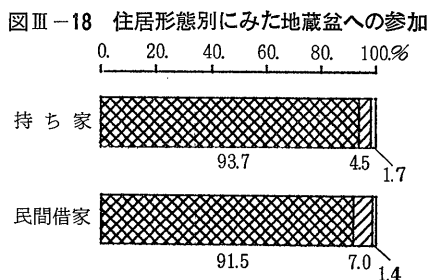
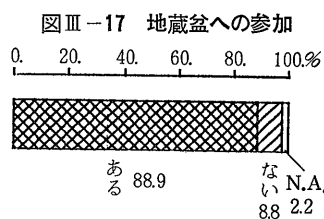
つぎに問7についてみてみよう。かつて町内会費は、オモテの持ち家だけから集められて、ロージの借家は納めなくてもよかったという。現在でも、西陣学区のある町内では、何軒かの

「旧家」が多少よけいに町内会費を納めているが、これなどはその名残と思われる。ロージに住む人は、何れオモテの持ち家にとの願いがあった、ということが言われているが、そうした町並を、人々は今日どのように感じているのであろうか。「家の並び」「とりたてて何も感じない」がそれぞれ39.4%と37.8%ではほぼ同様な割合であり、これらを合わせて約8割がオモテとロージにこだわっていない。しかし、「貧富の差」「人を差別するような意識」が10.1%と8.5%、合わせて約2割ある。それを「持ち家」「民間借家」別にみると、「持ち家層」に僅かではあるが、「貧富の差」11.0%、「人を差別するような意識」8.2%と高い。職業についてみると、オモテとロージにそれほどこだわっていないのは「無職」が一番高く、「主婦」「専門職」と続く。逆に「貧富の差」は「管理職」14.5%、「事務職」13.7%、「運輸・生産工程従事」13.0%で、「人を差別するような意識」は「技術・技能職」14.3%、「サービス職」13.5%、「専門職」12.2%、「管理職」11.8%で、ともに高いのが「管理職」となっている。

#### 4. 地 蔵 盆

地藏盆は、古くから行われている町内の夏の行事であるが、京都では、近年新しく出来た団地やマンションにおいても受け継がれてきている。若い世代が比較的少なく、高齢者の目立つ西陣地域で、この地藏盆がどのように捉えられているか問25でたずねた。

「地藏盆の行事に参加したことがありますか」の問に対して、「ある」と答えたものが88.9%と9割にも及んでいる(図Ⅲ-17)。「持ち家」「民間借家」別にみても、多少「民間借家」に「ない」と答えたものが多いが、ともに9割の人たちが行事に参加している(図Ⅲ-18)。居住年数でみると、年数が長くなるほど、参加が高いのがわかる(図Ⅲ-19)。職業でみると、「管理職」が94.7%と最も高く。「販売職」「運輸・生産工程従事」がともに93%で続いている(図Ⅲ-20)。低い方では、「技術・技能職」が78.6%で

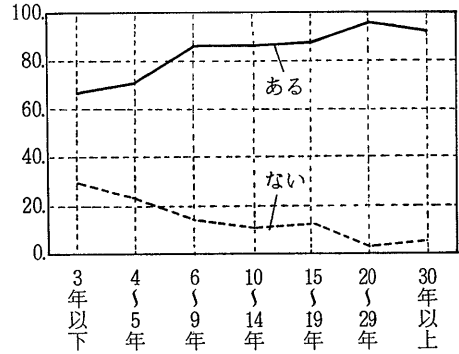


目立つ。

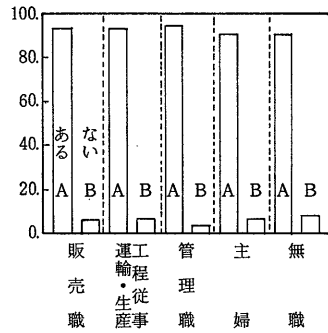
続いて、地藏盆にはどのような意義があると思うかたずね、選択肢のなかから二つ選んでも

らった。「町内の親睦をはかる」と「子供たちに楽しみをあたえる」が62.8%と55.7%で、地蔵盆が宗教行事にもかかわらず、むしろ町内の大人や子供たちの親睦や楽しみといった要素の強い行事ということがうかがえる(図Ⅲ-21)。これを職業でみると、「主婦」の「子供たちに楽しみをあたえる」が72.4%、ついで「運輸・生産工程従事」の65.4%が高く、この点では、「管理職」が46.1%と低いのが目立つ。「町内の親睦をはかる」は「運輸・生産工程従事」「管理職」層ともに高く、それぞれ70.3%、65.8%となっている(図Ⅲ-22)。「子供に宗教的情操を養う」とした回答が他と比べて高いのは、「無職」であり、無職に高齢者が多いことを考えると、この点うなづける。地蔵盆は町内の行事であるが、一般にそのための費用は寄付(お供え)でまかなわれていて、町内会とは一応区別されている場合が多い。それでも町内会の役員が世話するのがふつうで、町内の大人や子供がいっしょに楽しむ行事として捉えられているのだろう。(谷口浩司)

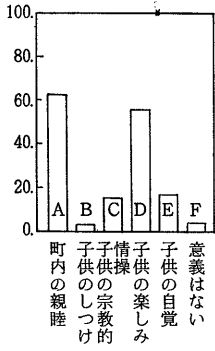
図Ⅲ-19 居住年数別にみた地蔵盆への参加



図Ⅲ-20 職業別にみた地蔵盆への参加



図Ⅲ-21 地蔵盆の意義



図Ⅲ-22 職業別にみた地蔵盆の意義

